

設備投資／キャッシュ・フロー分析

設備投資額(支払ベース)

(3月31日に終了した各決算期)

連結の設備投資額は、前期比133億円増の6,151億円となりました。

モバイル

前期比

↓27億円減

3,745億円

モバイルでは800MHz・700MHz帯や5Gの投資を前倒しで行った一方、開設計画を達成した3.5GHz帯やUQ WiMAX投資が一巡したことにより、前期比27億円減の3,745億円となりました。

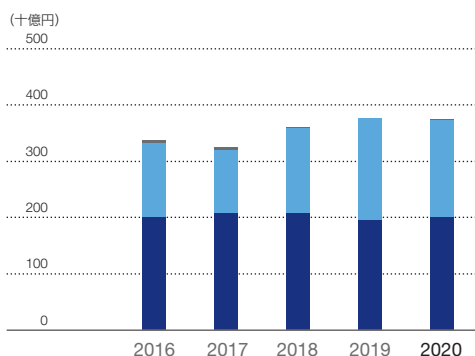
固定・その他

前期比

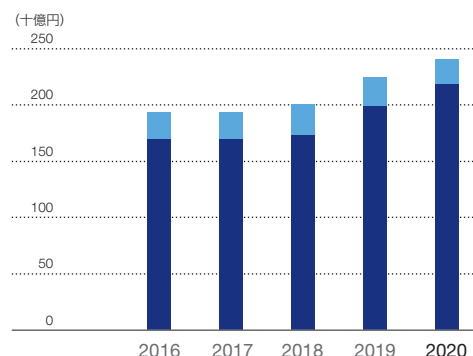
↑160億円増

2,406億円

固定・その他ではFTTHの投資額は減少したものの、ネットワーク設備構築・更改等の投資増などにより、前期比160億円増の2,406億円となりました。



	2016	2017	2018	2019	2020
■ 3G	5	4	1	1	1
■ 4G LTE・5G	131	114	152	181	174
■ 共通設備他	201	207	207	195	200
合計	338	325	360	377	374



	2016	2017	2018	2019	2020
■ FTTH	24	24	28	26	22
■ その他	170	170	173	199	219
合計	193	194	201	225	241

キャッシュ・フロー

フリー・キャッシュ・フロー

前期比

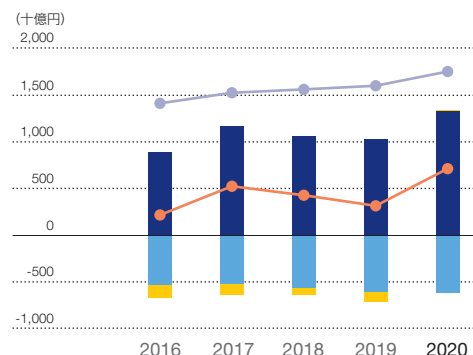
↑3,974億円増

7,124億円

フリー・キャッシュ・フローは、IFRS第16号の適用に伴うEBITDAの増加やじぶん銀行の連結子会社化に伴う収入の増加に加え、割賦債権増加幅の減少やau端末在庫の減少などにより、前期比3,974億円増となる7,124億円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、金融事業による支出増はあったものの、IFRS第16号の適用に伴う影響や営業債権およびその他の債権の増加などにより、前期比2,937億円の収入増となる1兆3,234億円の収入となりました。

一方、投資活動によるキャッシュ・フローは、設備投資の増加や関連会社株式の取得による支出の増加などはあったものの、金融事業による収入の増加や子会社の支配獲得による収入の増加などにより、前期比1,036億円の支出減となる6,110億円の支出となりました。



	2016	2017	2018	2019	2020
● フリー・キャッシュ・フロー	217	524	428	315	712
■ 営業活動によるキャッシュ・フロー	885	1,161	1,061	1,030	1,323
■ 設備投資	-531	-519	-561	-602	-615
■ その他投資キャッシュ・フロー	-136	-118	-73	-113	4
● EBITDA	1,411	1,524	1,560	1,599	1,751